輪状靱帯による弾撥肘の一例

福岡大学整形外科

中川 隆三・花村 達夫

木梨 博史・高岸 直人

Snapping Elbow from an Annular Ligament. Report of a case

by

R. Nakagawa, T. Hanamura, H. Kinashi,
and N. Takagishi

From the Department of Orthopedics,
Fukuoka University Hospital

A ten year old girl had a pain of sudden onset in both elbows in November 1977. On examination, there was diffuse tenderness over the common extensor muscles of the joint level.

Snapping was noticed on flexion and extension movements.

Conservative treatment failed to relieve the symptoms. Then, the right elbow was operated because of it's severity.

Inspection showed it as follows. On extending, the annular ligament was seen to slip over the anterior margin of the radial head with a snap so as to lie the radio-humeral joint.

Sequent flexion of the elbow resulted in a snap as the annular ligament slipped into the right position.

The annular ligament was moved distally and tightened as not to slip out from the radial head.

肘関節において、その伸展時に輪状靱帯が弾撥感とともに腕橈関節裂隙に滑り込み、さらに屈曲時には同様の弾撥感とともに整復位にもどるというメカニズムの疼痛を伴う弾撥肘の一例を経験したので報告する。

患者は10才女、主訴は両肘関節痛である。

現病歴は昭和52年11月、誘因なく両肘関節に弾撥感を覚えるようになった。

約1週間後、屈伸運動に際して疼痛を訴えるようになり、さらに2週間になると右肘関節は安静時にも訴えるようになったが、左肘関節は症状の進行なく軽い運動時痛むのみにとどまり、以後症状の変化なく経過し、S53年3月より当科外来にて経過観察するも好転なく、S53年7月観血的治療を施行した。

家族歴・既往歴には本症状との関連を考えさせる事

柄は認められなかった。

局所所見では両腕橈関節部に屈伸運動に際して弾撥現象を認めたが、その程度において左右差は認められなかった。

また、その部分に圧痛があり、特に右側に強く認められた。

S53年7月疼痛の強い右肘関節に対し、観血的に治療を試みた。

関節包に達したところで屈伸運動を加えると輪状靱帯に弾撥の原因があることが確認された。

図1に示すごとく、輪状靱帯が伸展時に橈骨骨頭から滑脱して、腕橈関節裂隙に陥入し、屈曲時に整復位にもどるという状態であった。図2-1に示すごとく輪状靱帯を遊離したところメニスクス様に腕橈関節裂隙に沿って肥厚しているのが観察された。

屈曲時

伸展時

図 1

そこで図2-2に示すごとく、遊離した輪状靱帯を、切離した関節包の遠位側断端縁に縫縮し、弾撥現象の起らないことを確認して手術を終了した。

後療法は、10日間良肢位固定したのみである。以後、疼痛、弾撥現象ともに消失し、現在良好に経過している。

snapping elbow として報告されているもののうち、尺骨神経が、肘関節屈曲時に、尺骨神経溝から滑脱するものが最も多いといわれている。

稀に報告されているものとしては、上腕三頭筋の内側頭が、屈曲時に内側へ滑脱して、尺骨神経障害を起す例がある。

本症に類似した症例としては、Clicking Elbow from a torn Annular Ligament という標題で

図2-1

図2-2

1963年 Whightman による報告がある。

これは、輪状靱帯の一部に、その線維走行に沿って約 1.25 cm の亀裂があり、その亀裂によって分けられた輪状靱帯の一部が、伸展時に腕橈関節裂隙に陥入し、屈曲時に整復位にもどるという1症例で、手術的に陥入部を切除することによって治癒せしめている。

われわれの症例もメニスクス様に肥厚した輪状靱帯による稀な弾撥肘の一症例ということで報告した。

参 考 文 献

- 1) J. A. K. Wightman, Derby, England: CLICKING ELBOW FROM A TORN ANNULAR LIGAMENT. J. Bone and Joint Surg, 45-B, No. 2: 380-381, May 1963.

質 問

長崎大 鈴木 良平

術前どのようにして診断されたか。